

「お茶の水地理」第50号発刊に思う

式 好子

1958（昭和33）年8月に飯本信之先生の後任として渡辺光先生がご着任になられた。

飯本先生は東京女子高等師範学校に27年余り、引き続きお茶の水女子大学に9年ご在勤の勤続功労者で重鎮でいらした。お茶の水女子大学開学の時には地理学科の設立に貢献され、いわばお茶大地理学科および地理学コース卒業生一同にとっての大恩人である。

渡辺先生がご着任の時、私は卒業していたので大学でご指導いただくことは無かったが、ご着任前の渡辺先生はよく存じ上げていた。私が卒業した高校は現在の千葉市稲毛区小仲台にあり、学校の前の浅い谷を隔てた南側のごく近い位置に地理調査所（現在の国土地理院）があった。高校卒業後、高校の地理の先生に地理調査所でのアルバイトを紹介していただき、大学の夏休みなどに巡検費用の一部を細々と稼がせていただいた。その時期、渡辺先生は地理調査所の要職にいらして、しばしばお目にかかる機会がありお世話になった。渡辺先生がお茶大の先生になられると伺った時には本当にびっくりしたものである。

ご着任早々渡辺先生が蒔かれた「お茶の水地理」の種は、翌年度の4年生、3年生（8、9回生）の手で5月に創刊号として芽吹いた。創刊号を出してくださった方々に先ず感謝申し上げたい。約50年を経て、ほぼ毎年1冊の発行が続けられてきたことは、振り返ってみればすごい成果なのだという感慨を持つ。

この50年の科学技術の発展は測量や地図つくりの世界にも大きな変化をもたらしている。国土地理院では1964（昭39）年（お茶の水地理6号発刊、まだガリ版刷り）、2万5千分の1地形図の整備が空中写真測量によって本格的に始められ、1984（昭59）年に全国を4,430面で覆って完了している。長年親しんできた5万分の1地形図より情報

量が密で精度の高い実測図で、日本の二代目の基本図として利用価値を高めた。

昨年、2009年6月に映画「剣岳<点の記>」（原作 新田次郎）が全国公開され、測量技術者の活躍が一躍クローズアップされた。陸軍陸地測量部（地理調査所の前身）所属の柴崎芳太郎測量官一行が剣岳の登頂に成功し、観測（観測用のやぐら）を建てて測量したのが1907（明治40）年7月であったから、100年目を記念するに相応しい見事な映画であった。

一方、国土地理院北陸地方測量部では地元関係機関や関係者と協力して3年度にわたる100周年記念事業を計画し、その一環として2004（平成16）年8月に剣岳山頂に3等三角点を設置、標石を埋めて測量を行い「点の記」を作成した（地理院広報436号、04年10月）。その報告によれば7月24日、地元の若い希望者が三角点標石の運搬作業を体験。立山町室堂から雷鳥沢キャンプ場まで約2kmを背負子を使いリレー方式で運んだ。標石は7月下旬に同キャンプ場から剣岳頂上へヘリコプターで運ばれた。環境省、文化庁、林野庁などの手続きを済ませて、8月24日、悪天候の中、無事標石の埋設を終了。翌25日に周囲の3等三角点2点とともにGPS測量による同時観測を実施し、位置・標高等のデータ取得を行い、さらに設置した三角点を基に同岳の最高点の標高を水準測量により測定した。測量の結果は07年7月1日発行の2万5千分の1地形図「剣岳」に表記された。剣岳の最高地点の標高2,999m、三角点の標高2,997.1m。ちなみに柴崎測量官一行が測量して求めた剣岳の標高は2,998mで、1913（大正2）年発行の5万分の1地形図に表記されている。当時の困難な環境を克服しながらの熟練した技術の高さを証明するものであろう。

しき・よしこ 第4回生

